

キーワード：～ 自分の目で判断し、適切な行動がとれる防災力  
（「自助力」、「共助力」）の育成を目指して～

## I 研究について

### 1 本校について

久之浜は、いわき市の北端に位置し、古くから漁業で栄えた久之浜町と農業を中心としている大久村で構成された地域である。

久之浜第一小学校は、明治6年創立146年の歴史ある学校で、昭和30年代には1300名を超える児童が在籍していたが、現在は137名と10分の1以下に減少している。



### 2 震災当日やその後の状況

3月11日の大震災では、久之浜地区は大地震、大津波、火災発生という甚大な被害に見舞われ、700戸の家屋が津波による流出や火災による焼失の被害に遭い、50名の方の尊い命が奪われたとされている。

学校においては、津波の被害はなかったが、地震による地割れや地震による地盤沈下により、校舎は多大な被害を被った。また、教職員の一丸となった避難誘導により、校庭への一時避難、そして大津波警報を受けての高台にある中学校への2次避難を行うことで、子供たちへの被害は防ぐことができた。

### 3 全体計画

学校防災教育目標を『～自分の目で判断し、適切な行動がとれる防災力（「自助力」、「共助力」）の育成を目指して～』とし、さらに、新学習指導要領で再整理された資質・能力の三つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」ごとに教育目標、重点目標、学年別重点目標とより具体的になるよう設定した。

また、目標に向かうための具体的取り組みを、「保幼中との連携」「地域との連携」「防災副読本等の活用」「教科・領域における指導内容」に分けて具体的に明記することにした。

（資料Ⅰ・参照）

### 4 年間計画

年間計画としては、全体計画にも明記した具体的取り組みを、さらに、学校行事、教科、生徒指導において、どの時期に何と関連づけて指導していくのかをカリキュラムマネジメントの視点から明確にすることで、見通しを持って計画的に指導していけるよう作成した。

（資料Ⅱ・参照）

## II 研究の実際について

### 1 校内での実践

#### 実践1 全学年 避難訓練（幼保小合同）＜5月9日＞

近隣のこども園、保育所と合同で、高台にある中学校へ避難



事前指導



ヘルメットの着用



中学校への2次避難



避難完了

#### 実践2 全学年・保護者 引き渡し訓練＜5月31日＞

非常時を想定した保護者への引き渡しを実施



校庭に集合



順番を待つ保護者



保護者への確実な引き渡し



**実践3** 第4学年

「いわき市地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館」見学〈6月6日〉  
地域にある防災施設の見学と様々な資料を用いた調べ学習



施設内見学



震災に関するたくさんの資料

**実践4** 第4学年 講話「震災を経験して（日赤賛助奉仕団：佐藤先生）」〈7月4日〉  
語り部（地域の方）による震災の体験談の講話



資料も使って話をしてくださる佐藤先生



真剣に話に聞き入る子供たち

**実践5** 第4学年 市役所出前講座<7月10日>

「河川洪水から我が身を守るために！」(河川洪水ハザードマップの利用方法)



洪水が発生しやすい気象状況や洪水時の心構えの説明



浸水想定区域の確認作業

**実践6** 教員 青少年赤十字防災教育プログラム<7月29日>

防災コミュニケーションワークショップ(竹ひごタワー)(ドローイングチャレンジ)

教職員が研修としてBCWを実体験



竹ひごタワー



ドローイングチャレンジ



**実践7** 全学年 シェイクアウト訓練<8月30日>  
県下一斉訓練への参加 そなふくノートの活用



そなふくノートや映像を使った事前指導



机の下への避難

**実践8** 第5学年 東北大学減災教育『結』プロジェクト・出前授業<9月18日>  
減災教育ツールを使用してのグループワークの実施



スタンプパネルづくりの説明



減災ハンカチ「結」



自分だけのスタンプパネルづくり



スタンプパネルの発表

**実践9** 第4学年 防火教室（消防署）＜11月5日＞  
地域の消防署による防火教室の実施



火事の危険を見つけよう



油火災実験

**実践10** 全学年 避難訓練（火災発生時の避難及び消火訓練）＜11月28日＞  
火災を想定した避難訓練及び教職員による消火訓練



避難完了



消火器の使い方の説明



消火訓練



誓いの言葉

## 2 公開授業研究会での実践等

(1) 第4学年 総合的な学習の時間「これからの久之浜を考えよう」の実践

### 第4学年 総合的な学習の時間:「これからの久之浜を考えよう(地域と防災)」

令和元年11月20日(水)5校時

場所:体育館 指導者:根本広子

#### 1 ねらい

- これまでの学習でまとめたものをもとに、班ごとに発表し合い、話し合うことを通して防災への意識を高める。

#### 2 指導計画(46時間 30/46)

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| (1) オリエンテーション             | ( 1時間)  |
| (2) 活動計画を立てよう             | ( 3時間)  |
| (3) 町へ調査へ出かけよう            | ( 6時間)  |
| (4) 町の将来について考えよう          | ( 6時間)  |
| (5) 防災マップをつくろう①②          | ( 8時間)  |
| (6) これまでの学習をまとめよう<本時> 5/6 | ( 6時間)  |
| (7) 安全な町作りについてまとめよう       | (1 1時間) |
| (8) 私たちの考えを広く知らせよう        | ( 5時間)  |

#### 3 展開

学習活動 ◇主な発問	時間	教職員の支援等【資料】
<p>① これまで学習してきたことの確認をする。</p> <p>◇ 今までにどんな災害について学習してきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火事、台風、地震、津波、水害、土砂崩れ、火山、大雪、非常時の持ち出し品の準備など</li> </ul> <p>② 班ごとに発表し合い、話し合う。</p> <p>◇ 学習したことを班ごとにまとめてきました。今日は、発表を聞いて「よかった点」「付け足した方がよい点」「直した方がよい点」を話し合ひましょう。その時に1番考えることは、発表内容が「災害から命を守ること」につながっているかということです。</p> <p>そして、学校や地域のみんなにも分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの班ごとに、発表し合い、感想を交流する。</li> <li>・ 時間になったら、発表する班を変えて、話し合</li> </ul>	<p>5</p> <p>20</p>	<p>○ これまで学習してきた資料を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練</li> <li>・ 引き渡し訓練</li> <li>・ 防災緑地見学</li> <li>・ 久之浜・大久ふれあい館見学</li> <li>・ 佐藤トミ子さん震災語り部</li> <li>・ 河川災害から身を守るには(いわき市役所河川課)</li> <li>・ シェイクアウト訓練</li> <li>・ B C W ドローイングチャレンジ</li> <li>・ ハイゼックス米炊飯体験</li> <li>・ 防火教室</li> <li>・ 各災害について学習したこと</li> <li>・ 日本赤十字社の資料</li> </ul> <p>○ 発表場所を2か所に分け、班ごとに交代して発表と話し合いができる</p>



<p>いをする。</p> <p>③ 今日の発表をよりよくするためにどうすればよいかを、各班の代表が報告する。</p> <p>◇ 自分の感想を書き、他の学校や地域の人々にもっと分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかを話し合います。班長は、話し合ったことを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつ避難した方がよいかを書いたほうがよい。</li> <li>・ 一人でも避難所に逃げた方がよいことも書きたい。</li> <li>・ もっと分かりやすい言葉でまとめたほうがよい。</li> <li>・ ポイントになる部分には、色をつけたほうが分かりやすい。 など。</li> </ul> <p>④ これからの学習予定を話す。</p> <p>◇ 今日話し合ったことをもとに、発表内容を付け足したり、分かりにくい表現は直したりしてから、まず、3年生にわたしたちの考えを伝えましょう。</p>	<p>ように場の設定をする。</p> <p>15 ○ 発表内容が、「災害から命を守ることに」につながっているかを考えて、感想を伝えるように話をする。</p> <p>○ ②で言われたことをもとに、もっと相手に伝わる内容にするためにはどうしたらよいかという視点を示す。</p> <p>○ ワークシートに発表した感想を書き、学校や地域の人々が「災害から命を守る」ことができるための発表内容になっているかを話し合う。</p> <p>5 【ワークシート】</p> <p>○ まずは、3年生に発表することを伝え、次時への意欲を持たせる。</p>
---	--

#### 4 評価

- これまでの学習でまとめたものをもとに、班ごとに発表し合い、話し合うことを通して防災への意識を高めることができたか。(ワークシート、話し合い)

#### 5 その他

- 東日本大震災を振り返る場合には、児童の実態に配慮する。

#### 6 参考文献

- ・ そなえるふくしまノート（福島県）
- ・ まもるいのち ひろめるぼうさい（日本赤十字社）
- ・ ふくしま放射線教育・防災教育指導資料活用版／実践事例集（福島県教育委員会）

#### 7 授業の感想

それぞれのグループが、半年を通して学び、深め、まとめてきた内容を、聞き手にしっかりと伝わるように発表することができていた。また、発表を聞くことで、さらなる防災意識の向上が図れていたと感じる。





(2) 第5学年 総合的な学習の時間「青少年赤十字防災教育プログラム

『まもるいのち ひろめるぼうさい』防災コミュニケーションワークショップ」の実際

第5学年 総合的な学習の時間:「防災コミュニケーションワークショップ」

令和元年11月20日(水) 5校時

場所: 自教室 担任: 大久保直輝

指導講師: 土屋悦男(日本赤十字社福島県支部)

1 ねらい

- 災害時に「自分のいのちは自分で守る=生きぬく力」はとても大事だが、自分のいのちを自分で守るためにはどのように行動すればよいのか。災害時には、まわりにいる人々が協力して問題解決をしていかなければならない。そこでこのプログラムでは、航空業界や医療現場で用いられているCRM、ノン・テクニカル・スキルの手法を取り入れることで、児童・生徒が生きぬく力を身につけることを目的とする。

2 指導計画(1時間)

(1) 竹ひごタワー

(1時間)

<概要>

- ・4~5名がひとつのチームとなり、限られたアイテム(竹ひご、マスキングテープ、紙ねんど)のみを使ってタワーを作り、制限時間内に、机(もしくは床)からボール(紙ねんど)のてっぺんまでの位置の高さを競う。
- ・自立したタワーでなければならないことから、手を使って支えてはいけぬ。
- ・アイテムは、折って使っても、切って使っても可。また、アイテムはすべて使わなくてもよい。(勝敗には関係ない)
- ・ボール(紙ねんど)に竹ひごを乗せても、刺してもよい。ただし、ボール(紙ねんど)の形状は変えてはいけぬ。
- ・マスキングテープを机に貼ってタワーを支えることは可能であるが、児童・生徒の想像力を働かせるために最初から伝えてはいけぬ。

<準備するもの>

- ・竹ひご: 10本(長さ360mm、径1.8mmが望ましい) × 2(2回分)
- ・マスキングテープ(手で切りやすいテープなら可): 900mm × 2(2回分)
- ・ボール: 紙ねんど(約15g)・計測するもの(ストップウォッチ、メジャー)

3 展開

(5分)	・チーム決め、ルール説明 チームを決め、机をチーム毎に寄せ、ルールを説明(1チームに1枚、ルールシートを配る。ルールが見えないように裏にして配るとよい。ルールシートはCD-Rに収録) 中・高校生の場合は、配られたルールシートを自分たちで読み上げることで理解で
------	---

	きるが、小学生の場合は、先生がルールシートを読み上げ、説明するとより分かりやすい。ルールの説明は1分ほど。そのあと質問時間を設ける。*事前に、2回行うことを言わない方が、より1回目に集中できる。
(10分)	・1回目(制限時間10分) 合図で一斉にスタートする。チームから測定の声がかけられたら測定する。測定は2回までとし、測定されなければ、記録に残らない。*チーム毎にメジャーが用意できればチーム毎で測定も可。*ストップウォッチは、教壇等に置いて自分たちで時間を確認させるようにする。(時間の読み上げはしない)
(10分)	・ふりかえり 「ふりかえりシート」を配る。まずは個人で3分ほどふりかえり、残りの時間を使って、チーム毎でふりかえりを共有する。
(5分)	・支援と評価 1回目の様子、ふりかえりの状況を踏まえながら、次頁「ふりかえり」の評価ポイントを参考に、気になる点を伝える。
(10分)	・2回目(制限時間10分)
(5~10分)	・解説を参考に、ねらいを伝える。

#### 4 評価

- 作業を行いながらも意見交換を活発に行い、改善をしている。
- 1回目と2回目によりよいやり方に変えるために適切なプロセスで決めている。

#### 5 参考文献

- ・青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」(日本赤十字社)

#### 6 授業の感想

BCWのねらいでもある、子供たちが主体的に取り組むこと、そして、他者への思いやり、優しさの大切さを学び取る力を育むことができたと感じることができました。



竹ひごタワー



ふりかえり

### (3) 実践経過報告及び講演会の様子

演題「未来へ向けて～久之浜第一小学校の取り組み～」

講師 錦公民館長 (元久之浜第一小学校長) 松本 光司



#### <参観者の感想>

同じ市内の小学校に勤務していながらも、震災当時の久之浜第一小学校の状況は、初めて聞く内容がほとんどであった。当たり前のように学校に通っていた日常が一変し、他校を間借りしながらの教育活動。一日も早い再開を目指しての除染作業や保護者会。改めて当時本校で勤務されていた先生方のご努力に頭が下がる思いであった。また、今年度も行った防災教育に係る様々な取組が、まさにこの時期から行われてきたものとなり、改めて次年度以降にもしっかりとつないでいかなければと強く思わされた講話であった。



### Ⅲ 成果と課題について

#### 1 成果

- 教職員に十分な専門性がなくても、関連機関や地域の施設、地域の方々、県発行の様々な資料等を活用することで、防災教育が進められるということを実感できた。例えば、児童一人一人に「そなふくノート」を常備させ、避難訓練の事前指導の際に活用した。教本もあるため担任が具体的かつ、わかりやすく説明できた。
- 「市役所出前講座」、「青少年赤十字防災教育プログラム」、「東北大学減災教育『結』プロジェクト」「消防署による防火教室」等、各種団体のプログラムを活用した。それぞれ専門の方が授業を行ってくださるので、内容が充実しているとともに、担任は児童の変容の様子まで見取ることができるというよさを感じることができた。
- 地域の「日赤賛助奉仕団」の方の震災講話、防災施設としての「久之浜ふれあい館」の見学など地域素材を活用することで「地域とともに創る防災教育」を展開することができた。

#### 2 課題

- 教育計画の位置づけ上、防災教育に関わる大きな取り組みが、総合的な学習の時間における4年生と6年生の学習活動に集中している。

#### 3 課題解決に向けて・・・

- ◇ しっかりとこれまでの活動の足跡を蓄積し、途絶えることなくつないでいくことで、全ての児童に「自分の目で判断し、適切な行動がとれる防災力」を身につけさせることができるよう進めていく。
- ◇ カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程編成において学年の偏りなく防災教育を位置づける。